

資産の総合評価シート

施設名	自立・就労サポートセンター若葉	施設所管課	保護課	評価番号	30-12
-----	-----------------	-------	-----	------	-------

1 分析結果																																		
(1) データ評価結果																																		
評価指標	①建物性能	②利用度	③運営コスト																															
対ベンチマーク	○	—	—																															
【まとめ】																																		
<ul style="list-style-type: none"> ・建物性能（残耐用年数25年）は課題なし。 ・類似施設がないことから、利用度及び運営コストの相対評価は実施しなかった。 																																		
(2) 現用途の需要見通し																																		
①利用実績の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・自立・就労サポートセンターは、国（千葉労働局）と協働で、生活保護受給者、児童扶養手当受給者及びその相談又は申請段階にある者並びに生活困窮者自立支援法に定める生活困窮者に、求人情報の提供、職業紹介及び就職までのサポートを行っている。 ・なお、「千葉市雇用対策協定」に基づき、毎年度事業計画を策定しており、事業内容を明文化している。 ・自立・就労サポートセンター若葉は、ふるさとハローワークや生活自立・仕事相談センター等と連携しており、若葉保健福祉センター内に設置されている。 <p>1 利用状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者は、生活保護・児童扶養手当・住居確保給付金を受けている人、生活困窮者、生活保護申請・相談中の入等である。 ・自立・就労サポートセンター（中央、花見川、稲毛、若葉）の相談件数は、平成27年度から平成29年度にかけて4千件程度で推移している。 ・若葉が減少傾向であるものの、平成27年度に開所した稲毛の件数が増加している。 ・また、支援件数や就職件数は、3年連続で増加しており、中央の増加件数が多い。 <p>■相談件数、支援件数、就職件数（若葉）</p> <table> <thead> <tr> <th></th> <th>平成27年度</th> <th>平成28年度</th> <th>平成29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>相談件数</td> <td>1,351</td> <td>1,164</td> <td>1,117</td> </tr> <tr> <td>支援件数</td> <td>366</td> <td>270</td> <td>315</td> </tr> <tr> <td>就職件数</td> <td>251</td> <td>198</td> <td>210</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・なお、自立・就労サポートセンター（中央、花見川、稲毛、若葉）の利用者（手当別の分類）の割合では、生活保護受給者の利用が80%以上を占めており、生活保護受給者数の高止まりを抑制する要因になっている。 <p>■利用者割合（手当別） ※4施設の3カ年平均数値を基に算出</p> <table> <tbody> <tr> <td>生活保護</td> <td>84%</td> <td>児童扶養手当</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>住居確保給付金</td> <td>5%</td> <td>生活困窮者</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>生保相談・申請中</td> <td>1%</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>2 運営コスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本事業は、市、労働局、ハローワークの一体的な事業であるが、運営場所は市が提供し、人員や経費は労働局やハローワークが負担することとなっている。 ・所管課は、光熱水費を支払うが、その支払い分を労働局が所管課へ支払うため、実質的な経費負担はない。 ※平成29年度 光熱水費：若葉 33千円 ・また、職員も職業安定所職員が担っており、本市の人事費に係る支出もない。 							平成27年度	平成28年度	平成29年度	相談件数	1,351	1,164	1,117	支援件数	366	270	315	就職件数	251	198	210	生活保護	84%	児童扶養手当	5%	住居確保給付金	5%	生活困窮者	5%	生保相談・申請中	1%		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度																															
相談件数	1,351	1,164	1,117																															
支援件数	366	270	315																															
就職件数	251	198	210																															
生活保護	84%	児童扶養手当	5%																															
住居確保給付金	5%	生活困窮者	5%																															
生保相談・申請中	1%																																	

②将来の人口動態などを踏まえた利用状況の変化	・長期的には、人口の減少に伴い、施設利用の効率性が低下する可能性がある。
③将来における効率性の変化	・利用者数が減少した場合、施設利用の効率性が低下する。

【まとめ】

- ・国（千葉労働局）と協働で、生活保護受給者、児童扶養手当受給者及びその相談又は申請段階にある者並びに生活困窮者自立支援法に定める生活困窮者に、求人情報の提供、職業紹介及び就職までのサポートを行う施設。
- ・自立・就労サポートセンター若葉は若葉保健福祉センター内に設置されている。
- ・利用度及び運営コストについては課題なしとなった。

(3) 公共施設再配置

①検討すべき再配置パターン	・類似事業としては、ふるさとハローワークが挙げられる。 ・なお、本事業は主に生活保護・児童扶養手当・住居確保給付金を受けている人や生活困窮者等を対象としているのに対し、ふるさとハローワークは対象者を制限せずに一般求職者を対象としている点等が異なっている。
②留意すべき制約条件	・事務や相談対応スペースが必要であるものの、特別な設備を必要としないことから、他の施設への移転を検討する余地がある。 ・ただし、本事業は、保健福祉センターにある社会援護課等との連携が必要であり、保健福祉センターに配置されていた方が利用者の利便性も高いため、直ちに移転を検討する必要性は低い。 ・自立・就労サポートセンター若葉の配置されている若葉保健福祉センターは、H28総合評価で計画的保全対象となっている。

【まとめ】

- ・事務や相談対応スペースが必要であるものの、特別な設備を必要としないことから、他の施設への移転を検討する余地がある。
- ・ただし、本事業は、本施設は各区の保健福祉センターにある社会援護課等との連携が必要であり、保健福祉センターや区役所に配置されていた方が利用者の利便性も高いため、直ちに移転を検討する必要性は低い。

(4) 資産の立地特性

①重視すべきエリア・資産の特性	・市街化区域（第一種住居地域）である。 ・JR都賀駅より徒歩10分 ・モノレール「都賀駅」下車徒歩10分
②公共としての活用ポテンシャル	・若葉保健福祉センター内に配置されていることなど、利便性が高く、公共としての活用のポテンシャルは高い。
③外部転用のポтенシャル	・市街化区域（第一種住居地域）であることなど、外部転用のポтенシャルは高い。

【まとめ】

- ・自立・就労サポートセンター若葉の立地特性は、若葉保健福祉センター内に配置されていることなど、利便性が高く、公共・外部転用のポテンシャルは高い。
- ・ただし、保健福祉センター内に配置されていることから、活用スペースとしての用途は限定的である。

2 総合評価

評価結果	
継続利用	・国（千葉労働局）と協働で、生活保護受給者、児童扶養手当受給者及びその相談又は申請段階にある者並びに生活困窮者自立支援法に定める生活困窮者に、求人情報の提供、職業紹介及び就職までのサポートを行う施設。 ・自立・就労サポートセンター若葉は保健福祉センター内に設置されている。 ・利用度及び運営コストについては課題なしとなった。 ・保健福祉センターにある社会援護課等との連携が必要であり、保健福祉センターに設置されていた方が利便性も高いため、直ちに移転を検討する必要性は低い。 ・以上のことから、本施設は計画的保全対象とする。
方向性	
⑪継続（計画的保全対象）	